

日本手話版言語流暢性検査の開発（1）

—表出型手話語彙検査の試行版作成について—

○武居 渡

（金沢大学学校教育系）

KEY WORDS: 手話・語彙・検査

1. 問題の所在

子どもの日本語の語彙を評価する検査として、語彙理解の側面を見る検査と語彙表出の側面を見る検査がある。

前者の例として、絵画語い発達検査（PVT-R）（上野・名越・小貫，2006）や抽象語理解力検査（SCTAW）（春原・金子，2002）などがある。PVT-Rは、被験者に単語を提示し、その単語の意味に最も近い絵を被験者に選択させるものであり、語彙理解の発達を評価する検査である。SCTAWは知劇となる単語が抽象語であり、刺激後に対応する絵を複数の選択肢から選ぶことを被験者に求めるものである。

後者の例としては、言語流暢性検査（WFT）（伊藤・八田，2006）が挙げられる。WFTは、文字流暢性課題とカテゴリー流暢性課題がそれぞれ3問実用意された検査である。文字流暢性課題とは、「あ」「か」「し」から始まる単語を1分間でできるだけたくさん挙げてもらうものであり、ある条件に当てはまる語彙を指定時間内に表出することを求めることから、心的辞書へのアクセスを評価するものである。カテゴリー流暢性課題はある特定のカテゴリーを提示し、「職業」「動物」「スポーツ」の名前を1分間でできるだけたくさん挙げてもらうというものである。WFTは語彙発達の表出的側面を評価する検査であると言える。

一方手話の語彙を評価する検査法はわが国ではまだ開発されていない。手話語彙を評価するテストとして、PVT-Rのような語彙理解を評価するものが考えられ、これまで武居（2011, 2013, 2016）は、手話語彙の映像を被験者に提示し、その語彙の意味に最も近い絵を選ぶような語彙検査の開発について報告している。しかし、手話の語彙表出に関する検査についてはまだわが国では報告がない。

2. 研究の目的

本研究は、表出型の手話語彙検査として、日本手話版言語流暢性検査を開発することを目的とする。本報告では、その端緒として、手話における文字流暢性課題とカテゴリー流暢性課題を提案し、それらの課題が被験者の手話語彙力を反映するものであるかどうかを検証することを目的とする。

3. 日本手話版文字流暢性課題の提案

手話には研究者が手話を記述するために開発された書記システムは存在しても、英語や日本語のように言語使用者が日常的に用いる文字は存在しない。そのため、手話における文字流暢性課題を作成する際には、手話単語を構成する「音韻」に焦点を当て、同じ「音韻」を用いる手話単語を列挙してもらうような形の課題が考えられる。手話言語学の中では、手話単語は「手型」「運動」「位置」という3つの要素が同時に結合することによって構成されると考えられており、「手型」「運動」「位置」が音声言語でいうと

ころの音韻に相当する。そのため、日本手話版文字流暢性検査の課題としてTable 1のような課題が考えられた。

Table 1 日本手話版文字流暢課題例

課題例	該当する手話単語
人さし指だけで作られる手話単語	<明日><けんか><遊ぶ><悪い><嘘>など
人さし指と中指を伸ばした手型を使う手話単語	<決める><会社><食べる><散髪><ビール>など
両手の手型が異なる手話単語	<名前><島><買う><場合><愛知>など
手と顔が接触する手話単語	<おいしい><まずい><松><苦手><病気>など
両手が同じ動きをする手話単語	<手話><活動><バス><木><車>

4. 日本手話版カテゴリー流暢性課題

カテゴリー流暢性課題は、原理的には日本語版と同様のカテゴリーを提示し、手話で回答することで問題ないはずである。しかし、スポーツの名称を手話で表す場合、<バレーボール>や<バスケットボール>など、実際のレシーブやシュートの動作をそのまま表すことで表現され、すば一とつ名称として回答しているのか、単にそのスポーツをジェスチャーで表現しているのかの判断が難しいことが手話の特徴として考えられる。そのため、手話版では写像性の特徴の影響をあまり受けないようなカテゴリーで検査を作る必要がある。そのようなことから、以下のようなカテゴリーを考えた。

Table2 日本手話版カテゴリー流暢課題例

課題例	該当する手話単語
職業	<医師><看護師><公務員><会社員><大工>など
動物	<犬><ネコ><ウサギ><ライオン><ゾウ>など
スポーツ	<卓球><サッカー><野球><スキー><柔道>など
乗り物	<電車><バス><車><飛行機><船>など
色	<赤><青><黄色><緑><ピンク>など

5. 今後の計画

これらの課題をまず手話を第一言語とするろう者や手話を学習している聴者に実施してもらい、これらの課題が手話の語彙力を反映しているものなのになっているかどうか検証する。そのうえでろう児の手話語彙力評価法として使うことができる検査を作成する。（ Wataru TAKEI）